

代議員総会・議事要録

(午前 10 時開会)

1. 開会宣言

司会の大会幹事 L 野崎武（以下、「司会者」と表示する）より本日司会進行を担当する旨の自己紹介があり、定刻となったので開会宣言を 330-A 地区ガバナー L 森山勇にお願いする旨の紹介があった。

紹介を受け、330-A 地区ガバナー L 森山勇より第 53 回年次大会代議員総会の開会宣言が為された。

2. 議長挨拶

司会者より、議案集 2 頁記載の「第 53 回年次大会・議事規則」第 3 項により、L 森山勇ガバナーが議長に、L 飯田善彦副地区ガバナーが副議長に就任する旨紹介が為された。

大会議長 L 森山勇（以下、「議長」と表示する）より、以下のとおり挨拶が為された。

(大会議長の挨拶)

代議員の皆さま、おはようございます。

早朝よりのご参会誠に有難うございます。

「光陰矢の如し」と月日の経つのは早いもので、昨年 4 月この東京プリンスホテルで次期ガバナーとしてご信任をいただき、7 月にボストン国際大会で中村保彦ガバナーよりガバナーエレクトのリボンを外していただいたのがつい昨日のように感じます。

本日、新しい年度の重要事項を決定していただき、更に英知溢るる代議員各位のシンポジウムによりライオンズクラブの近未来を構築する意義ある代議員会になりますようにご理解とご協力をお願い申し上げる次第です。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 議長より各正副委員長ならびに顧問紹介

議長より、代議員会における各委員会・分科会の正副委員長及び顧問の方々は、議案集 6 頁から 8 頁に記載のとおりであるとの紹介が為された。

議長より、本会議の議案集作成後に会計処理委員会から、付託のあった「1. 2004～2005年度会計処理の調査の件」「2. 2005～2006年度会計処理の調査の件」「3. 第52回年次大会決議による2002年～2003年度の会計処理に関する解決金に関する件」につき、本年次大会に諮りたいと議案の提出があり、この提案を相応なものと認め、大会規則第8条の定めに従い本大会の議事として取り上げ、会計処理委員会の審議に付すよう提出が為され、代議員の拍手をもって承認された。

4. 次期地区ガバナー候補者紹介

議長より、次期地区ガバナー立候補者は東京荒川ライオンズクラブ所属L飯田善彦1名であり、L飯田善彦の経歴については議案集18頁に記載されているとおりである旨紹介が為された。

5. 次期副地区ガバナー候補者紹介

議長より、次期副地区ガバナー立候補者は東京八王子陵東ライオンズクラブ所属L石井征二の1名であり、L石井征二の経歴については議案集19頁に記載されているとおりであるとの紹介が為された。

議長より、次期副地区ガバナー立候補者として東京みやこライオンズクラブ所属L河合悦子の経歴が記載されているが、3月31日付で立候補辞退届を受理していると報告が為された。

6. 資格審査委員長より資格審査結果の発表

資格審査委員長L和田雄幸より、第53回年次大会の代議員数は現・前・元地区ガバナーを含め議案集掲載の545名であること、本日9時50分迄に登録を済ませた代議員は484名であり、全員の資格を確認し、有資格者であることを認めた旨の報告が為された。

7. 次期地区ガバナー選出

地区ガバナー、副地区ガバナー指名・選挙委員長L野崎武より、次期地区ガバナー候

補者はL飯田善彦1名であり、議案集3頁記載「330-A地区第53回年次大会議事規則」第10項(1)(ハ)の「候補者が1名の場合は、(イ)、(ロ)の趣旨に則ることを条件に、別の方法によることができる。」との規定により、「別の方法」を地区ガバナー、副地区ガバナー指名・選挙委員会の指名と代議員の拍手に依ることにつき大会議長より出席代議員に諮るよう要請が為された。

これを受け、議長より次期地区ガバナー選出方法を「別の方法」である地区ガバナー、副地区ガバナー指名・選挙委員会の指名と出席代議員の拍手に依る選出方法にすることについて代議員の承認を求めたところ、賛成多数により承認された。

以上の承認を受け、地区ガバナー、副地区ガバナー指名・選挙委員会は2007～2008年度330-A地区ガバナー候補者である東京荒川ライオンズクラブ所属L飯田善彦を次期地区ガバナーに指名することが地区ガバナー、副地区ガバナー指名・選挙委員長L野崎武から発表された。

この指名を受け、議長が、東京荒川ライオンズクラブ所属のL飯田善彦を次期地区ガバナーとすることの承認を代議員に求めたところ満場一致の拍手があり、承認された。

議長より、2007～2008年度330-A地区ガバナーは東京荒川ライオンズクラブ所属のL飯田善彦が満場一致にて選出されたことが報告され、飯田ガバナーエレクトが起立し、代議員の拍手を受けた。

8. 次期副地区ガバナーの選出方法の説明

地区ガバナー、副地区ガバナー指名・選挙委員長L野崎武より、次期副地区ガバナー立候補者は東京八王子陵東ライオンズクラブ所属L石井征二の1名であり、L石井征二の経歴については議案集19頁に記載されているとおりであるとの紹介が為された。

地区ガバナー、副地区ガバナー指名・選挙委員長L野崎武より、次期副地区ガバナー候補者はL石井征二の1名であり、議案集3頁記載「330-A地区第53回年次大会議事規則」第10項(2)(ニ)の「候補者が1名の場合は、(イ)、(ロ)の趣旨に則ることを条件に、別の方法によることができる。」との規定により、「別の方法」を地区ガバナー、副地区ガバナー指名・選挙委員会の指名と代議員の拍手に依ることにつき大会議長より出席代議員に諮るよう要請が為された。

これを受け、議長より次期副地区ガバナー選出方法を「別の方法」である地区ガバナー、副地区ガバナー指名・選挙委員会の指名と出席代議員の拍手に依る選出方法にすることについて代議員の承認を求めたところ、賛成多数により承認された。

以上の承認を受け、地区ガバナー、副地区ガバナー指名・選挙委員会は2007～2008年度330-A地区副地区ガバナー立候補者である東京八王子陵東ライオンズクラブ所属L石井征二を次期副地区ガバナーに指名することが地区ガバナー・副地区ガバナー指名・選挙委員長L野崎武から発表された。

この指名を受け、議長が、東京八王子陵東ライオンズクラブ所属のL石井征二を次期副地区ガバナーとすることの承認を代議員に求めたところ満場一致の拍手があり、承認された。

議長より、2007～2008年度330-A地区副地区ガバナーは東京八王子陵東ライオンズクラブ所属のL石井征二が賛成多数で選出されたことが報告され、副地区ガバナー予定者L石井征二が起立し、代議員の拍手を受けた。

9. 記念講演会講演者紹介

大会副幹事L梶原正和より講演者のスワーダ・モハメド・アブドゥラ・アルムダファラ氏を紹介した。アラビア半島のオマーンから来日し、日本人で初めてオマーン人となった女性で、1990年に幼稚園児5人からスタートし、学校経営を軌道に乗せ、現在、12年制の一貫総合教育学校を国内190校、私立高校内でもトップクラスの生徒500名を育て、新聞、テレビ、雑誌に取り上げられ、『ニューズウィーク日本版』誌で「世界が尊敬する日本人100人」の1人として大きく取り上げられ、今年2月、国際文化会館の依頼で東京、大阪、佐賀等5カ所で5日間連続の講演をなされた。

講演は文化、社会制度がまったく異なるアラビア半島の国で高い評価を受けている理由は何か、教育者としてのビジョンや問題意識から、岐路に立たされている日本の青少年教育に国外から視点を投げかけていただき、昨今の流動的な国際情勢の中にあって異文化の相互理解の促進にどのように取り組むべきかのお話を伺うとの説明が為された。

10. スワーダ氏の講演要旨（スクリーン使用）

「あなたが今日の教育を変えられる」のタイトルで講演をさせていただきます。オマ

ーンはアラビア半島の小さな国で、砂漠だけの晴れたところではありません。山があり谷があり、雨が降りますと川ができるという自然に恵まれたところで、日本の美しい四季はございませんが、日本とは違う気候で暑い、寒い2通りのシーズンがあります。

仏教の本にもキリスト教の聖書にもイスラム教のコーランの中にも、「私たち人間は土と水とでできあがる」と書かれております。すべて両親の手に乗るぐらいの小さな生命を受けてこの世に生まれてきたわけです。今日までの人生の中に赤ちゃんの可愛い時が皆さんにもあったということを出していただきたいと思います。

いたずらっ子で育ちながらいろんなものに興味を持ち、動物に興味を持ち、町の中を駆け歩き、自然の中を駆け歩き、両親はまず学校に行くこと、読むこと、書くこと、聞くことを教育として学んできました。小さな子なりに物事を考えながら常に進んできました。自分だけで学んでくることは今日の時代はテレビだと思います。テレビの画面を見ている時は個人プレーです。テレビゲームになる前に、まず小さなカリキュレーターが子供たちのゲームになり、それから大きなスクリーンの中のゲーム。日本の企業が世界に売り出しているプレイステーションとして世界どこの国の子供たちもこのゲームをしています。私は3年前に子供たちと一緒に生活することがありまして、このプレイステーションと一緒に見るようになりました。

初めの頃のプレイステーションはスポーツゲームから入ってきましたが、現在のプレイステーションは格闘技のような感じがしています。子供たちは戦うこと、勝つこと、相手を打ちのめすことをプレイステーションの中で学んでいるのかと思っています。

皆さんは教育を変えなければいけない、何とかしなければいけないと思われていると思います。このプレイステーションの中で子供たちがいかにアグレッシブル、喧嘩をしたくなり、喧嘩をすることが当たり前になってくる。

私どもの学校ではコンピューターを教えています。幼稚園の子供から高校生までコンピューターのレッスンが入っております。高校生のコンピューターはすべて鉛筆と同じように使いこなせるように、会計の勉強をさせております。会計の勉強は人生にとって一番大切なことで、ファイナンシャル・ステートメントが読めないと、これからの人生はやっていられないというのが私の考え方です。コンピューターを使いながら、子供たちは元気に学校の中で論議し合いながら勉強しております。

どこに問題が出てくるのか。

まず読むことを教えられました。書くことを教えられました。読むことを覚えると子供たちはだんだんいろんな本に興味を持ちます。今日の子供たちは本を開けるよりもテレビのスイッチを入れることが多くなっているのではないのでしょうか。私たちは本を読む能力、情報網が将来成功するカギになっている。ところが本を読むことが少なくなっている子供たちに、プレイステーションのゲームを通して教育ができるのではないかと考えています。

子供が自殺してしまう。学校の中で喧嘩をする。昔は当たり前だったのではないかと思い出して下さい。いろんな学校生活の中で読み・書きを習ってくる。親からいろいろ教えられながら育っていた中で、学校の上級生になりますと親よりも友だちがよくなります。友だちから学ぶというより楽しむことが進んできているのではないかと感じております。

そしてディスコテクにいたり道路の真ん中でダンスをしたり、これはどういう心理の下に入るのかと思いますと、個人の注目が欲しいのではないかと察しております。注目を浴びる中でブランド物を持つことが自分の好奇心をかきたててくる。悪いことだとは思いません。でも自分を表現するために、高いブランド物を子供たちが買うようになってきて、高ければいいという時代になっているのではないのでしょうか。物質だけがあればいいという世界になってきていると思います。小さい子供も自分を表現するためにファッションを考えています。大きくなると周りとは違うファッションを考えている若者が多いのではないのでしょうか。彼らは誰かに見てもらいたいというアテンションが不足していると感じています。

私たちは何のために生きているのでしょうか。何をしていったらいいのでしょうか。親になりましてよくわかりました。子供に教育を受けさせ、卒業させる。高学歴を考えて、将来いい職業に就いて、いい生活ができることがファイナンシャルなわけです。そのためだけに学校に行っているのでしょうか。教育とは何でしょうか。私たちみんなが考えなければいけません。

私が学校のスタッフに言っていることは、子供たちに授業をページ　バイ　ページ、要するに頁ごとに教えていくのではなくて、読むこと、書くこと、聞くこと、考える力

をもたせてあげれば、子供たちは勉強はできるようになると常に言っています。

コミュニケーションは小さな電話に代わりました。24時間電話を抱えていてまったく休む時間がない。すべて皆さま方のターゲットを達成するために、それが私たちの生きている目的のようになっているのではないのでしょうか。

日本もいま週休2日になってきています。お休みの日も町にはたくさん人がいて、特に東京は多くの人の中で動き回っています。

少し目をつぶってみて下さい。静かな音楽を聞くことが1日のうちに何回ありますか。春、美しい桜が咲き始めます。青空の中にピンクのきれいな花が満開に咲きました。夏が来ます。夏休みは子供たちとどこに行こうか、暑い夏の中から秋の葉の色の変わるのを待ち焦がれてくるのではないのでしょうか。寒い冬になって周りは真っ白になります。

私は日本の教育の中で一番学んだことは、情緒を育てることだったと海外に出て気がつきました。情緒とは何でしょう。自然の中で必然的に4つの四季を学ぶことを身につけてきました。暑いアラビアの国に行って、いつも思ったのは四季がどこにあるのか。戦争の後に日本の人たちは一生懸命働いて経済大国を作り上げてきました。東京オリンピックがあつて若者が自分を表現するために、自由に動き回れるようになりました。企業は文明を進めてきて、日本はすばらしい経済大国になってきました。皆さま方が一生懸命働いたおかげだったと信じています。その裏には朝のラッシュアワー、家に帰る時も人混みの中。夜遅くまで高速道路は車が一杯。

初めてお父さん、お母さんになった時、とても嬉しかったと思います。でも子供が育つと同時に、忙しさで新聞を読んだり、おしゃべりに夢中になったり、本を見させながらも子供の注目を忘れていました。一人でものを食べること。家族の輪の中で子供たちが食事をするのは非常に貴重な時間だと思いますが、どのくらいの時間を費やされましたでしょうか。

教育とは家庭の中から入ってくると思います。子供に社会の状況を教えることが本当の教育だと考えております。まず小さな社会、家族です。家族がしっかりと手をつないで支え合い、語り合い、アドバイスをしないなら、いかに世界の人たちと手をつなぐのでしょうか。

子供たちに読むこと、書くこと、聞くこと、この中から考えることを教えました。そ

れを遠慮なく人の前で発言することがこれからの社会人を築き上げる大切な教育の基礎だと考えております。学校からくるものではありません。私たちが考えている学校教育の中からくるものではなく、大人と子供が小さな種を植えることによって、みんなの温かい手の中で芽を育てることが教育だと考えていきたいと思います。

小さな家族が手をつなぐことができ、穏やかに仲良く暮らすことができる、そして地域。皆さまがライオンズという組織を使って地域のための発展を心掛けていらっしゃる方々が、家族、地域を一つにし、社会に送り出して多くの人たちと手を結び合える、円を組むことができるようになって、初めて私たちはいい教育ができたと考えます。手をつなぐことはとても難しいように思います。特に私たちは昔のことを忘れてしまって、今日の成功のみを見ている大人たちにとって、忘れていくことがあるのではないか思い出して、子供たちに何をしてあげたらいいかを考えています。

人間は何のために生まれたのでしょうか。2本の手、2本の足、2本の目があり、耳があり、五体が満足であったら何も不可能はなく、人生をやっていけると思います。でもその基を築けるのは子供たちに、考える力と危機に遭った時に、どうやったら防いでいけるか、乗り越えていけるかという力を与えることだと思います。算数や社会、科学を教えることも大変重要なことですが、もっともっと重要なことはまず「家族の輪」「地域の輪」「国の輪」といったものが出来上がってこそ作り上げられるものだと思います。

いま日本の教育を変えたい、教育は悪いと言っています。でも教育方針というのは家を建てる時の柱と同じで、肉付けをしていくのは私たちです。

神様が作り上げてくれましたこの地球を見て下さい。半分以上海です。水と土で出来上がっています。私たちと同じ素材で出来上がっているものを支えているのは2本の手です。この地球がいつまでも幸せに、子供たちが幸せに、争いなく過ごしていけるためには、家族の輪を広め、小さな社会、地域の社会を作り上げていくことによって、この地球をいつまでも平和に、環境のよい世界が作り上げられていくのではないのでしょうか。

昨日、NHKの国会弁論を見ました。法律とか決まりを変えることは非常に難しいことだと思います。何億という人たちが住んでいるこの日本で、教育は小さな言葉のように思いますが、法律を変えていくことは大変なことだと思います。私たちが考えてできないことは絶対にないわけです。地域の大人たちが子供たちに目を向け、子供たちは大

人のアテンションが欲しいということを思い浮かべてほしいと思います。

私は毎日500名の生徒と握手をして教室に送ります。その日の子供たちのコンディションがわかります。一言声をかけてあげることによって、子供は安心して教室に戻っていきます。そういった心遣いを大人がもっとしていけば、世の中は変わっていくのではないのでしょうか。

私の信じている教育は、読むこと、書くこと、聞くこと。その中からものを考える力を育てること。算数の本が厚くなろうが薄くなろうが、私たちができることはたくさんあると思います。

生まれた時裸で生まれました。死ぬ時も裸で死んでいきます。みんな同じです。私たちの素材は地球と同じように土と水から出来上がっております。この大きな地球を私たちの小さな手でしっかり支えながら、これからの子供たちが幸せに過ごせるように努力していかなければならないのではないのでしょうか。

本日はお招きありがとうございました。（拍手）

1 1. 各分科会会場の説明

大会副幹事L黒田幹雄より、各分科会の会場の案内が以下のとおり為された。

- ①政策・会則・長期計画・建設計画分科会→2階・マグノリアホール
- ②経理・会計処理分科会→11階・高砂
- ③会員・エクステンション・IT・PR分科会→11階・末広
- ④国際大会・緊急援助分科会→11階・ピオニー
- ⑤アクティビティⅠ分科会→2階・サンフラワーホール
- ⑥アクティビティⅡ分科会→3階・ゴールデンカップ
- ⑦アクティビティⅢ分科会→3階・紅梅

また大会副幹事L黒田幹雄より、その他各会場までの案内、各分科会の開催時間、各分科会の決議等の報告、代議員会の再開時間等について説明が為された。

（分科会審議）

分科会における決議及びシンポジウムの内容は後記のとおりである。

1 2. 再開

(再開宣言)

議長より代議員会を再開する旨の宣言が為された。

資格審査委員長L水上良文より、合計代議員数は484名であったが、追加登録代議員数が35名であることを確認し、その結果出席代議員数は519名となった旨の報告が為された。

1 3. 次期地区大会開催地およびホストクラブ発表

ガバナーエレクトL飯田善彦より、次期年次大会開催地は東京、ホストクラブは現在の第14リジョン（編成替え後の第7リジョン）内クラブとする旨の発表が為された。

1 4. 次期副地区ガバナー選出の件

議長より、2007～2008年度330-A地区副地区ガバナーに東京八王子陵東ライオンズクラブ所属L石井征二が選出されたことが発表された。

副地区ガバナー予定者L石井征二より以下の挨拶が為された。

(副地区ガバナー予定者L石井征二)

ただいまご選出いただきました東京八王子陵東ライオンズクラブL石井征二です。今後ともよろしくお願い致します。

1 5. 各委員会・分科会報告および決議

本日決議委員長L相羽史朗欠席のため、決議副委員長L萬屋裕より、決議委員会・分科会の結果については各分科会の審議報告を各分科会委員長の報告としたいとの申出があり、議長はこれを了承した。

(政策・会則・長期計画・建設計画分科会委員長L西村泰一)

政策・会則・長期計画・建設計画分科会のご報告を申し上げます。

ガバナー提案です。ライオンズ総合事務所に関する継続審議の件でございますが、ガバナーがお見えになりご挨拶も頂戴した上で慎重に研究を進めていきたいというガバナー提案で承認を頂戴しました。

シンポジウムでございますが、テーマ1の330-A地区内各クラブ活性化のための長期的展望に立った計画案については、クラブの活性化、会員増強に成功したクラブの方々の話を頂戴しながら有意義な討議を重ねてまいりました。

テーマに今後整備すべき制度及び規定については、女性参加の委員会を作ったらどうか。今後、合併の問題も出てくるのではないかと。準会員ということもございますので、この辺について種々討論を重ねてまいりました。シンポジウムに関しましては穏やかなうちにも有意義な討論が行われましたことを報告させていただきます。ありがとうございました。

(会員・エクステンション・IT・PR分科会委員長L若尾迪治)

会員・エクステンション・IT・PR分科会の若尾迪治と申します。

決議事項が1点、シンポジウムが2点ございました。

決議事項は、330-A地区アクティビティ・スローガン決定でございますが、荒川ライオンズクラブと浅草ライオンズクラブの2クラブからご提案がございました。諮りましたところ、皆さま方から東京荒川ライオンズクラブ提出のスローガン「感動の共有」に決定致しました。

シンポジウムですが、いろいろ難しい問題がからんでおります。会員増強のための方法論及び地区とその取り組み方という、非常に難しい議論が百出して、時間がいくらあっても足りない項目だと思います。とにかく皆さんの要望した形というのは、質の向上、クオリティの向上を図りたいという形でございます。これに力点を置いて新メンバーをぜひとも多く勧誘させていただきたいということでございます。

行動力を高めるためには、より若い方々、いまの経営者の息子さん、2世、3世になるかわかりませんが、20代～30代、40代という若い人たちに多くのアピールをかけて、新しく入会を希望する形で進めていったらよろしいのではないかと。古い方々には極力、若い方々の行動力を含めた上でアドバイスすることが大切ではありますが、普段からうるさいことを言わないようにしようということでございます。

2番目のライオンズクラブにおけるIT活用について。これも若い方々でしたらパソコン始め携帯等の技術も扱いに慣れておいでになるでしょうが、われわれ年寄りですと指先が思うように動かない点がございます。ただ、この活用に関しまして国際協会ではWMMR、サバンナとか各クラブの幹事さんが国際協会に届けるのにパソコン活用が必

須条件になっております。合同事務局に連絡がいつているかと思いますが、単一でクラブ、事務局をお持ちの方々は、焦点がずれないようにはっきりとした事務局に通達をしていただき、幹事さんが一緒に I T に慣れていただいて、報告を怠らないようにしていただきたいということでございます。

パソコン以外、携帯等含めましてインフォメーション・テクノロジーに慣れ親しむしかないだろうという結論のシンポジウムでございました。以上でございます。ありがとうございました。

(国際大会・緊急援助分科会委員長 L 坂下賢三)

国際大会・緊急援助分科会の報告を申し上げます。

テーマは国際大会に対する取り組み方についてということでした。近年、日本ライオンズの出席代議員数は他の国に比べて大変少ない。そういうこともあって複合地区、国際大会委員長会議において、今年は 800 人規模で参加しようという決議をなされたそうです。各自が参加して投票権を行使する。そのことが確認されたということです。

この 7 月 2 日から始まる国際大会について細かいスケジュール等の報告があった後、代議員権、議決権の行使をしようということでした。そういうお話を承りました。

ついで、330-A 地区としての緊急援助実施要綱についてというテーマです。これは大変広いんですが、そのうち地震に絞ってシンポジウムを行いました。30 年以内にマグニチュード 7 クラスの東京直下型の地震が発生されると予測されているわけですが、そんな中でライオンズクラブとしてどんなことができるだろうかということで、担当の委員長からいろいろと報告があって意見交換したわけです。

その中でまずセミナー等開催して、地震に対する認識と情報の共有を図らなければ駄目だろうということです。それから住む町、地区、職場の状況、道をよく把握して災害時に対応できるようにしようということです。ライオンズクラブとしてはお互いに情報等の共有を図れるようなネットワークづくり等を行って緊急災害に備えようということです。以上です。

(アクティビティ I 分科会委員長 L 姉川啓一)

アクティビティ I 分科会でございます。地区ガバナー提案 2 件の決議事項がございました。ご報告致します。

330-A地区環境検証の一部訂正の件が審議され、承認されました。ご説明致します。ライオンズクラブ国際協会330-A地区は、われわれの子孫への未来を継続するため、ライオンズの奉仕の精神に則り、各クラブが手をつなぎ、地区環境、保全活動を推進する。訂正箇所は「ライオンズクラブ国際協会、各クラブが手をつなぎ」が追加されました。

同じく、地区ガバナー提案2件目でございます。アクティビティプログラム3カ年計画の一部変更の件でございます。3点でございます。いずれも承認可決致しました。ご説明致します。330-A地区環境問題アクティビティプログラムの3年計画を5年計画に変更する。承認されました。

環境保全については、常設委員会として設置存続する。いずれも承認されました。

第3点、同委員会で環境問題に精通した人材については、単年度ではなくてある程度の人数が次年度に残り、環境保全活動を充実させることの承認でございます。いずれも承認可決致しました。

次にシンポジウムでございます。テーマ1「CSFⅡの最終年度における取り組み方」でございます。発表致します。CSFⅡは今年7月から最終年度になります。現在のところ、330-A地区のCSFⅡ目標達成率は46%前後でございます。目標達成のためには地区コーディネーター、グループ・コーディネーター、ゾーン・コーディネーター。皆さま方と共に組織を挙げて取り組んでいきたいということになりました。特に各クラブの会長、幹事さんのご理解と熱意が不可欠であります。その施策と致しましてモデルクラブMJF献金の増強、周年記念事業のアクティビティ、チャリティゴルフ、チャリティコンサート、街頭募金活動の推進等、目標達成に向けてメンバー皆さま方のご協力をお願い致したいとなりました。

テーマ2「地球温暖化問題に関するライオンズクラブとしての取り組み方」でございます。20世紀の100年間で地球の気温は0.6度上がっております。温暖化は確実に進んでおります。北極、南極の氷山をはじめ、高山の氷河が溶けたり、海面の水温が上昇することで、多くの島々に住む人々が甚大な被害を受けております。いま進んでいる温暖化の原因は、人間が石油や石炭をエネルギーとして放出したために起きた人災であります。京都議定書にあります二酸化炭素5%削減目標を含め、環境保全の重要性は

地球滅亡、人類滅亡につながっていることをもっと地域社会に、われわれライオンズクラブはPR、支援していきたいとなりました。以上でございます。ありがとうございました。

(アクティビティⅡ分科会委員長L鹿野俊一)

アクティビティⅡ分科会L鹿野俊一でございます。

私共の分科会はシンポジウム、テーマのみを行いました。薬物乱用防止活動に関する今後の課題。6月8日午後1時から6時まで、薬物乱用防止全国大会が開催されます。当日は内閣府を始めとする各官庁、内閣総理大臣、各大臣の講演、国際本部よりアショク・メータ前国際会長並びに大変お忙しい中ドクター・アントニオ国連薬物犯罪事務局長のご出席を賜ります。ドクター・アントニオ事務局長は朝の8時に成田に着きまして、夕方5時に帰られるという多忙の中来日されます。当日は武道館において1万2000名を集めるということでございますが、そのうち当330-A地区では3000名の出席を求めています。全クラブ会員の約60%にあたると思いますが、クラブによっては例会振替、参加費5000円の一部負担、また各地区の子供より多くの出席をさせることをお願いしております。

聞くところによりますと台東区の中学では715名の参加をお願いしております。また、薬物乱用防止委員会では薬物乱用防止教室を実施しておりますが、330-A地区では207クラブ中数十クラブであり、今後より多くのクラブが教室を開催するように、また各クラブのメンバーの多くの方々に養成講座を受けていただき、認定講師になってもらいまして、各種講座活動の機会を多くするようにご依頼申し上げました。

テーマ2のYE活動における今後の課題でございますが、YE委員会の任期は今年度は7月1日より6月30日までとしておりますが、委員長が必要であれば8月31日までに延長してほしいとの要請がございました。

また近年、各メンバーが減少しております関係で、非常に受け入れ、派遣が少ないために委員会では苦勞されているようでございます。委員会のメンバーのお家ですとかいろいろ頼んでおられるそうですが、受け入れ総数30名で四苦八苦しておられるそうです。皆さま方のご協力をよろしくお願い致します。ありがとうございました。

(アクティビティⅢ分科会委員長L脇村孝友)

アクティビティⅢ分科会の委員長L脇村でございます。どうぞよろしくお願い致します。

アクティビティⅢ分科会の報告を致します。

この分科会はすべてシンポジウムでございました。テーマ1「献血活動における今後の課題」ということで、豊島ライオンズクラブの芦田Lが献血を250回以上されているということで、そのお話をお聞きし、献血をすることにより、骨髓に新しい血が自分のからだに生まれるのではないかとということで積極的に献血をされました。年齢は69歳で、いまはされていないということです。

また、献血・エイズ委員会委員長L吉田實よりテーマについて、日赤とは献血車の配車をコストと環境の面から献血ルームを積極的に活用してほしいとの話がありました。この件について各クラブより積極的に意見があり、一定の時期、一定の場所で行うことは献血活動を定着させることになり、各事業所も活発に参加してくれるということでございます。今後は日赤本部と現場との意見が違わないかということもございましたけれども、われわれは現場の意見をお聞きして、献血活動に邁進していくことになりました。

テーマ2と致しまして「骨髓移植、献眼、献腎のアクティビティ」。献眼・献腎・骨髓移植推進委員会委員長L矢部正二よりテーマについて、骨髓移植の説明員養成のためのセミナーを開催していること。ライオンズメンバーに理解をしていただき、多くの説明員養成セミナーに参加して、一人でも多くの説明員の養成の誕生を図って欲しいということでございます。

また、献眼ドナーの申込みは4400名いるが、実際は昨年116名の実施のみに留まっているということでございました。次に献眼の本人の登録はあるが、家族の同意がないために実施されないということでございますので、皆さん方家族からもよろしくお願い致し、また各協会の予算が少ないので、ぜひライオンズクラブのご協力をお願いしたいということでございました。以上の件、緊張の中にも和やかにシンポジウムを進めることができました。どうもありがとうございました。

(経理・会計処理分科会委員長L伊原勝彦)

経理・会計処理分科会委員長のL伊原でございます。皆さまのお手元にあると思いますが、経理分科会は「1. 2006～2007年度330-A地区上半期会計報告書承認の件」。これは地区ガバナーから提案されたものでございます。この件につきましては、全会一致で承認されました。

以下、2. 「2005～2006年度330-A地区会計報告書承認の件」3. 「2007～2008年度地区クラブ費として1クラブ1カ月3000円の件」。これは副地区ガバナー提案でございます。4. 「2007～2008年度地区費として1メンバー1カ月440円拠出の件」。5. 「2007～2008年度地区特別運営費として1メンバー1カ月200円拠出の件」。6. 「2007～2008年度地区大会費として1メンバー1カ月100円拠出の件」。7. 「2007～2008年度地区特別大会費として1メンバー1カ月50円拠出の件」。これはすべて全会一致で承認されました。

あと2点ございます。山浦ガバナー期の会計処理について次期、飯田ガバナー期において調査委員会を設け、調査を継続し、ご報告をするということで承認がとれました。

もう1点、今井元ガバナー、村木元幹事の未収金についてということで、第52回年次大会決議で支払うことが決まったのにも関わらず、これを履行しないということはライオンズメンバーとして相応しくない。よって今井元ガバナーと村木元幹事に対し、退会勧告をするという動議が提出され、この動議の取扱いをめぐり規則上動議として認められないという意見、採択を取るべきだという意見等、種々いろいろ皆さま方から意見が出されました。

委員長としてその中で採決は取らず、議事の記録をして森山ガバナーに、この件についての今後の取扱いを付託するという事で承認されました。以上でございます。ありがとうございました。

司会者より、本来なら議長が在籍すべきところ、常陸宮同妃両殿下がご到着されたのでお迎えにいつて不在になっており、議長に代わる旨、報告が為された。

司会者より、ここで一括方式により各分科会の決議内容について承認の拍手をお願いする旨代議員に諮ったところ拍手多数により決議・報告内容は全て承認されました。

16. 閉会

(閉会宣言)

司会者より、以上で各議案審議全てを終了し、これをもってライオンズクラブ国際協会330-A地区第53回年次大会代議員総会を終了する旨の閉会宣言が為された。